

# 京都東山の妙法院坊官の日記、初の活字化！

政治・文化・自然災害など多岐にわたる、  
江戸時代の一大史料集成

史料纂集古記録編

第204回配本

みょうほういん ひなみき

# 妙法院日次記 第25 完結

妙法院史研究会 校訂【2019年9月20日刊行】

● A5判・函入・372頁・定価(本体17,000円+税) ISBN978-4-8406-5204-9 C3321 ¥17000E

寛政7年(1795)～寛政8年(1796)

本日記は、京都東山七条にある天台宗の名利妙法院の坊官が、寛文12年(1672)より明治9年(1876)まで約二百数十年にわたって書継いできた同寺の記録である。校訂にあたった妙法院史研究会は、昭和49年(1974)に故村山修一先生を代表として発足し、妙法院所蔵の宝物と史料の調査にあたってこられた。

妙法院境内の本坊や大仏殿周辺の寺領、知行地には1,626軒、約1万人の住民が居住し、境内周辺の社会経済史的な史料が非常に多岐にわたって記録されている。そのため、単に寺の歴史だけに止まらず、朝廷・公家・所司代・町奉行などとの交渉や江戸幕府の宗教政策、京都所司代や京都の町奉行の「お触れ」に関する写しも数多く収められている。また、寺院に出入りする知識人階級や画家等の芸術家の動向も散見される。本書は、江戸時代を研究する上で、あらゆる分野にわたる一大史料集成といえる。

本書は、史料纂集古記録編として、昭和59年より刊行を開始し、今回25冊目を刊行することが出来ました。史料纂集本としては、本冊をもって完結とさせていただきます。

## 妙法院日次記 全25冊 既刊一覧

- |  |  |
|--|--|
| ①元禄7年(1694)～元禄13年(1700) 296頁 定価(本体6,400円+税)      | ②元禄14年(1701)～宝永4年(1707) 346頁 定価(本体7,400円+税)      |
| ③宝永6年(1709)～正徳4年(1714) 324頁 定価(本体7,400円+税)       | ④正徳5年(1715)～享保5年(1720) 280頁 定価(本体6,600円+税)       |
| ⑤享保6年(1721)～享保9年(1724) 304頁 定価(本体7,200円+税)       | ⑥享保10年(1725)～享保14年(1729) 418頁 定価(本体10,000円+税)    |
| ⑦享保15年(1730)～享保19年(1734) 410頁 定価(本体10,000円+税)    | ⑧享保20年(1735)～元文2年(1737) 444頁 定価(本体14,000円+税)     |
| ⑨元文3年(1738)～寛保元年(1741) 428頁 定価(本体14,000円+税)      | ⑩寛保2年(1742)～延享2年(1745) 376頁 定価(本体12,000円+税)      |
| ⑪延享3年(1746)～寛延3年(1750) 360頁 定価(本体12,000円+税)      | ⑫宝暦元年(1751)～宝暦5年(1755) 424頁 定価(本体14,000円+税)      |
| ⑬宝暦6年(1756)～宝暦8年(1758) 392頁 定価(本体13,000円+税)      | ⑭宝暦9年(1759)～宝暦11年(1761) 488頁 定価(本体14,000円+税)     |
| ⑮宝暦12年(1762)～明和元年(1764) 512頁 定価(本体15,000円+税)     | ⑯明和2年(1765)～明和6年(1769) 340頁 定価(本体11,000円+税)      |
| ⑰明和7年(1770)～安永3年(1774) 378頁 定価(本体14,000円+税)      | ⑱安永4年(1775)～安永7年(1778) 360頁 定価(本体13,000円+税)      |
| ⑲安永8年(1779)～天明3年(1783) 432頁 定価(本体13,000円+税)【OD版】 | ⑳天明4年(1784)～天明6年(1786) 386頁 定価(本体12,000円+税)【OD版】 |
| ㉑天明7年(1787)～天明8年(1788) 416頁 定価(本体13,000円+税)【OD版】 | ㉒寛政元年(1789)～寛政2年(1790) 448頁 定価(本体15,000円+税)      |
| ㉓寛政3年(1791)～寛政4年(1792) 352頁 定価(本体15,000円+税)      | ㉔寛政5年(1793)～寛政6年(1794) 368頁 定価(本体15,000円+税)      |